

「鹿島グループのアジア展開 - カジマ オーバーシーズ アジア」

当社グループでは、海外の建築事業・設計事業・開発事業については現地法人化して事業展開するとの方針の下、1960年代以降、世界各地にグループ会社を設立、1980年代半ば以降は、北米、ヨーロッパ、アジアにそれぞれのエリアを統括する拠点を設置し、東京を含めて世界四極体制にてグローバルに事業を推進しております。

このうち、シンガポールに地域統括機能を置くカジマ オーバーシーズ アジア (KOA) は、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア、ベトナム、香港、インドの事業会社等を傘下に有しております。建築事業、開発事業を主体に1988年に設立以来四半世紀にわたり事業展開しており、社員数は約2,500人、そのうち鹿島本社からの出向者は5%程度となっております。

今年度の当社グループにおける海外連結子会社の建設事業受注高合計は、2006年度以来6年ぶりに2,000億円を超えましたが、このうちKOAが約1,200億円と過半を占めております。KOAは売上高も1,000億円を超え、受注高・売上高ともに、設立以来最も高い水準となりました。

これを支えるのはアジア新興国の経済成長。シンガポールでは、大型建設投資が相次いでおり、世界的金融ハブを造る都市再開発プロジェクト「マリナーベイ・ファイナンシャルセンター」におい



マリナーベイ・ファイナンシャルセンター全景

ては、KOA JVが超高層オフィス・商業施設3棟の建設を手掛け、2012年に最後のタワー3（延床面積約20万㎡）が竣工しました。

KOAのシンガポール事業の特徴は、政府系発注の大規模プロジェクトを多数受注していること。近年では、シンガポール総合病院病理学棟（ザ・アカデミア）、シンガポール国立技術教育機関（ITE）中央キャンパス及び本部棟、国立シンガポール工科・デザイン大学等、100億円超のプロジェクトを毎年受注しており、まさに、現地法人として根付いている証左と言えます。

その他の東南アジア諸国においては、主に海外進出を図る日系企業の生産施設建設に携わっており、特にタイでは、日系企業の旺盛な設備投資を背景に活況を呈しております。

KOAのもう一つの柱である開発事業の代表プロジェクトは、インドネシア政府から40年間の事業権を取得したBOT



スナヤン・スクウェア・プロジェクト全景

事業である首都ジャカルタにおける「スナヤン・スクウェア・プロジェクト」。約19万㎡の敷地に、ショッピングモール、オフィス、アパート、ホテルを建設する複合開発事業で、1996年のショッピングモール開業以来16年が経過し、ジャカルタのランドマークとなっています。現在、最終開発フェーズとして、32階建てのホテル複合棟を建設中です。

当社グループでは、これまで培ってきた経験と信頼を礎に、今後も積極的に海外展開を進めてまいります。